

## 図書館・博物館連携

### —人文系資料を対象とした大学図書館・大学博物館の連携を中心に—\*

安達 匠 (学籍番号 200621303)

研究指導教員：逸村 裕

#### 1. 研究目的

「図書館・博物館連携」の基本概念は、図書資料から博物資料へ、また博物資料から図書資料への情報提供が基礎になる。そのための館種を越えた連携が図書館・博物館連携である。

しかし現状では図書館・博物館連携の情報は極めて少ない。こうした中、図書館・博物館の現場で具体的にどのような連携が行われているのか、またその現状から連携の要件もしくは連携への提案は可能か、以上の調査分析を本研究の主旨とした。

#### 2. 研究方法

以前より図書館を含めた異館種連携の必要性は謳われていた。そこから導き出される利用者の学習・研究探究心の向上が期待されながらも、具体的な事例は極めて少ない。その連携の障害として、資料の問題・運営の問題・目録の問題など主に博物館側にその問題点が浮き彫りにされている。

こうした問題点、そして図書館・博物館連携の現状を分析するための研究対象を、一機関内に図書館も博物館も併設できる環境である大学図書館・博物館連携とした。更に大学内で、学習・研究の上で図書資料も博物資料も資料価値の高い、人文系（哲学・歴史・語学・文学）の博物館と同組織内の大学図書館に焦点を定めた。また人文系大学博物館であっても、大学内に博物館と同じ内容の学部・学科・専攻等を設置していない大学は除外した。調査対象大学博物館は 26 機関 27 館（内総合博物館 10 館、歴史系博物館 17 館）、対象大学図書館は 26 機関 26 館である。

これら人文系大学博物館・図書館の予備調査として、Web 調査と 2 大学 3 大学博物館にインタビュー調査で連携の現状を把握した。それを基に連携の実態を調査する上でどのような連携が想定されるか「目録（データ）の連携・統合」、

「展示（現物・デジタル）の連携」、「組織（人・施設）の連携」の三つの仮説を設定した。そして対象である大学図書館・大学博物館に質問紙を依頼し、先の内容について調査を行った。

#### 3. 結果

##### 3.1. 「質問紙調査」結果（図表 1 参照）

調査期間は平成 19 年 9 月 20 日～10 月 15 日、回答館は博物館 17 機関 18 館（回答率 66.7%）、図書館 18 機関 18 館（回答率 69.2%）であった。

##### ① 目録（データ）の連携・統合

レベル 1 で設定した「図書館 1 次資料 Web 等公開」、「博物館 1 次資料目録作成」という連携の基盤については約半数は実施されているものの、それ以外の具体的な事例は見られない。目録連携については横断的情報共有など研究が進められているにもかかわらず、現場では認識が低いと見られる。

##### ② 展示（施設・デジタル）の連携

「並列展示連携」が約 17%、「展示施設連携」が約 3%と僅かとはいえ現物での展示の連携に関しては具体的な事例が見られた。むしろ近年のデジタル化促進により簡便に実施の可能性の高いデジタルでの展示の連携が全く見られない。

##### ③ 組織（人・施設）の連携

各レベルに万遍なく事例が見られるのが人的な組織の連携である。しかし全レベル約 4 分の 1 に収まるところをみると、率先している機関で連携が盛んと見ることが出来、それ以外は皆無であると読み取れる。また施設に関しては約 1 割であるが、協調的な施設がある。これについては「現物の展示の連携」とも関連が深い、事例があることが興味深い。

---

\* “Cooperation between Libraries and Museums : Focusing on that of University Libraries and University Museums for the Academic Materials on Humanity Fields” by Shou ADACHI

|       |                                    |                                  |                                     |                 |                        |                         |
|-------|------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|-----------------|------------------------|-------------------------|
| レベル 3 | 博物館 1 次資料・図書館 2 次資料 横断検索<br>0.0%   |                                  | ネットワーク<br>連携<br>0.0%                | 展示施設連携<br>2.9%  | その他相互サ<br>ポート<br>27.3% | 共同体制の取<br>れる施設<br>11.1% |
| レベル 2 | 博物館 1 次<br>資料作成支援<br>0.0%          | 博物館 1 次<br>資料目録国<br>際標準化<br>0.0% | 展示用 PC 連<br>携<br>0.0%               | 並列展示連携<br>17.1% | 質問相互サポ<br>ート<br>30.6%  |                         |
| レベル 1 | 図書館 1 次<br>資料 Web 等<br>公開<br>55.6% | 博物館 1 次<br>資料目録作<br>成<br>50.0%   | 簡易展示連携 (2 次資料紹介リ<br>ーフレット等)<br>0.0% |                 | 人的交流<br>23.5%          |                         |
|       | 図書館                                | 博物館                              | デジタル                                | 現物              | 人的                     | 施設                      |
|       | 目録の連携                              |                                  | 展示の連携                               |                 | 組織の連携                  |                         |

図表 1

本調査結果でも明白だが、現状、図書館・博物館連携は積極的とは見受けられない。そうした中でも前向きな事例があり、その機関について具体的な連携の内容とポイントに関して聞き取り調査を行った。

### 3.2. 「聞き取り調査」結果

調査対象は駒澤大学、大谷大学、山形大学の 3 大学である。積極的な連携が行われていたのは大谷大学と山形大学である。この 2 大学の特長として、図書館・博物館が組織・施設共に同一なことで、特に組織が同一であることは企画・運営面で連携事業の促進の大きな要素になっている。その具体例が山形大学の「紅花プロジェクト」であろう。その成果である「紅花の歴史文化館」は 1 次資料から 3 次資料までを備えた紅花の総合データベースであり、また小中学生の総合学習の支援と成果を載せるなど、学習教育研究を対象とした図書館・博物館連携の成果と言えよう。

しかし連携の具体例が表示されたとはいえ、研究が盛んに行われている目録に関する連携は 3 大学においても皆無に等しい。連携に伴う情報共有、情報公開の一環からは是非とも目録の連携に関しても率先して実施することが望まれる。

### 4. 考察

人文系資料を扱った大学図書館・大学博物館の連携は決して積極的ではないものの、「展示の連携」と「組織の連携」の実施例の中から具体的に連携を実施している機関が見られた。更に連携を率先した機関のポイントとしては、図書館・博物館の組織・施設の同一性である。質問紙調査でも散見されたが、現状、大学という同一機関にありながら組織を異にする図書館と博物館は共同体制の模索すら進んでいない。そのため「組織の連携」は図書館・博物館連携を推進するためには重要な要素である。

しかしいくら図書館・博物館連携を推進する

ためとは言え、同一化するための組織の改組が簡便に行われるはずもなく、その打開策として検討できるのがプロジェクト設置である。山形大学の「紅花プロジェクト」同様、プロジェクトを基盤として機関内の情報共有・公開を率先する土壌をつくるのが先決かと思われる。またここで図書館・博物館連携の必要性が提示できれば恒常的な連携の模索がはじまることが期待できよう。今後プロジェクトという企画性の高い連携事業を提示して、そこから図書館・博物館連携を模索していることが必要になる。

人文系資料を対象とした大学図書館・大学博物館の連携という、図書館・博物館連携を検討する上で一部に焦点を当てたが、総合的な視点から連携を研究することが出来た。本研究結果を基に、今後は人文系の枠を超え、社会系・芸術系・理系、そして公共での事例等図書館・博物館連携の可能性も含め幅広く研究を推進していくことが望まれよう。

### 文献

- [1] 画像電子学会VMA研究会. 博物館情報の知的横断検索の試み. 博物館・美術館 DTD-SG. 2002, p. 77-78.  
[http://www.hi-ho.ne.jp/y-komachi/committees/vma/ann\\_confs/2002/2002-3.pdf](http://www.hi-ho.ne.jp/y-komachi/committees/vma/ann_confs/2002/2002-3.pdf), (参照 2007-12-13).
- [2] 田窪直規. 「博物館資料情報のための国際指針」について: 図書館資料と文書館資料の国際基準標準との関係で. アート・ドキュメンテーション研究. 2003. 10, p.37-49.
- [3] 菅野育子. 欧州の情報政策による図書館、博物館間協力の可能性. アート・ドキュメンテーション研究. 2006. 13, p.3-9.
- [4] 山形大学附属図書館. “紅花の歴史文化館”. 山形大学附属図書館. 2007-11-02.  
<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/benibana/>, (参照 2007-11-22).